

サービス付き高齢者向け住宅の主な課題と対応の方向性

主な課題	対応の方向性（論点）
○地域との連携、介護予防、健康増進、役割や仕事の提供など、住まいの良さを活かしたサービス付き高齢者向け住宅の供給をどう促進すべきか。	<p>★人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業によりソフト面も含め意欲的な取組を支援</p> <p>☆良い取組を後押しするような仕組み（表彰や事例紹介など）は考えられないか。</p>
○高齢者向け住宅への住み替えは平均年齢で80歳代になっているが、早めの住み替えやリフォームをどう考えていくべきか。	<p>★IoTなどにより低コストで効果的に見守りを行う高齢者向け住宅をモデル事業により支援</p> <p>★高齢期の健康で快適な暮らしのための住宅改修ガイドライン（仮称）の作成・普及</p> <p>☆前もって高齢期の住まい方（住み替えやリフォームなど）を促す仕組みは考えられないか。</p>
○多様な高齢者向け住宅がある中で、消費者にどう分かりやすく伝え、適切な住宅を選択してもらうのか。	<p>★運営情報の提供の促進</p> <p>★入居希望者の状況（要介護の有無、経済状況等）に応じた適切な情報提供先の把握（本人・家族、ケアマネ、病院、福祉事務所等）</p> <p>☆医療・介護サービスに加え、地域連携や介護予防等のサービスも情報提供することは考えられないか。</p>
○サービス付き高齢者向け住宅について、倒産、需給状況、入居元の住宅の空き家化など、多面的に実態把握を行っておくべきではないか。	<p>★登録主体を通じた定期調査（毎年6月頃）の実施（登録抹消などの件数は把握可能）</p> <p>☆入居者の選択（どんな選択肢からなぜサ付き住宅を選択したか等）や事業者の運営（運営上の課題等）の観点からの実態を把握できないか。</p>